

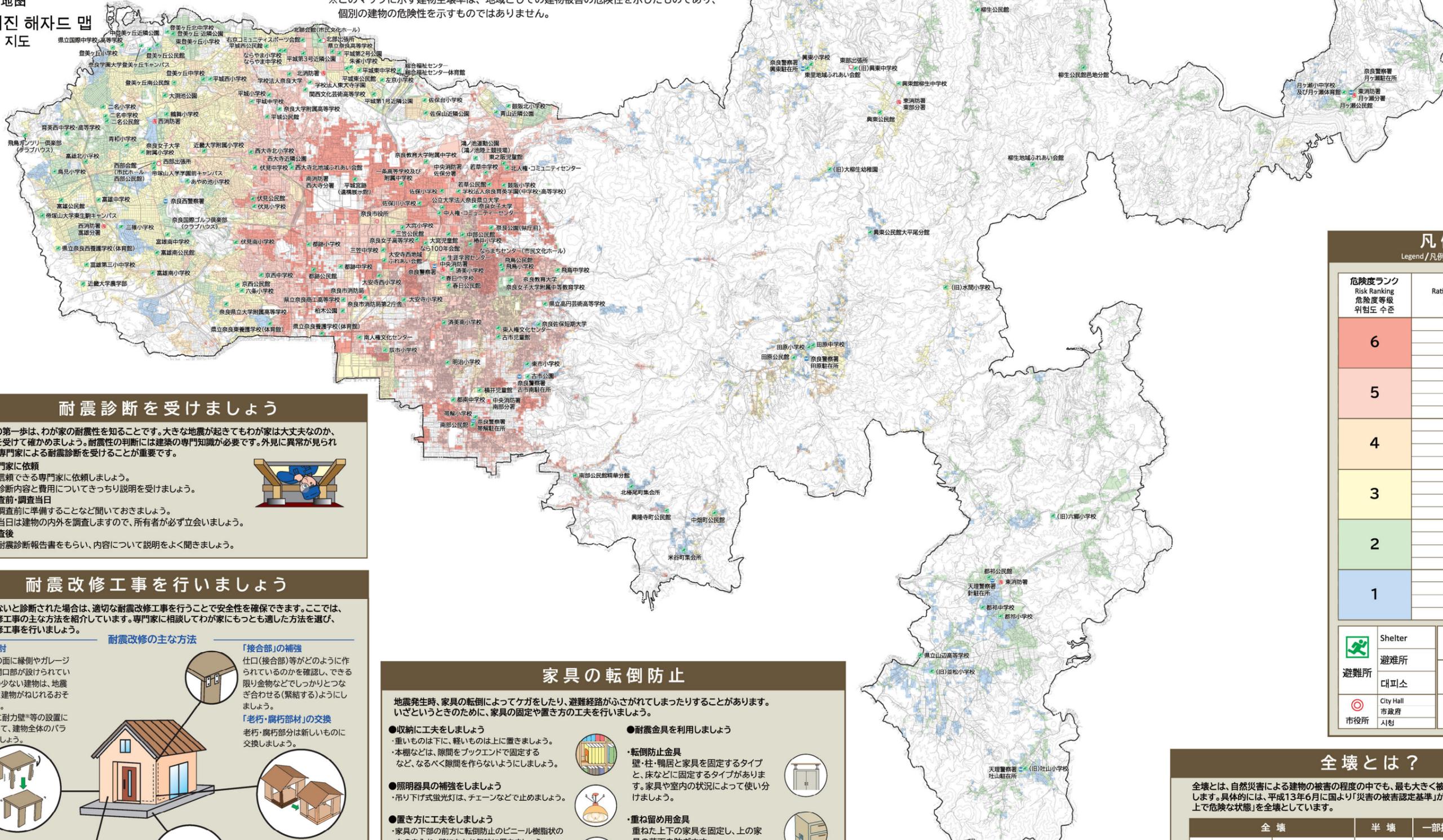
# 奈良市 地震ハザードマップ

## 地域危険度マップ

Nara City Earthquake Hazard Map  
Regional Risk Map

奈良市地震避難地図  
地区危険度地図

나라시 지진 해자드 맵  
지역위험도 지도



※このマップに示す建物全壊率は、地域としての建物被害の危険性を示したものであり、個別の建物の危険性を示すものではありません。

**このマップの活用方法**  
 その1 自分の家や近所の危険度はどのくらいかチェックしましょう。  
 その2 よく行くところ、よく通る道の危険度はどのくらいかチェックしましょう。  
 その3 避難所までの経路の危険度はどのくらいかチェックしましょう。

最新の防災情報について

最新ハザードマップ・避難所情報は奈良市防災ポータルサイトで(QRコード)ご確認ください。  
 本マップに記載の情報は令和8年3月時点の内容です。  
<https://www.ci.ty.nara.jp/site/bousai-saijisi/>



凡例 Legend / 凡例 / 범례	
危険度ランク Risk Ranking 危険度等級 위험도 수준	建物全壊率 Ratio of destroyed buildings 建築物全部倒壊率 건물 도괴율
6	50%以上
	50% and greater
5	30%~50%
	30%~50%
4	20%~30%
	20%~30%
3	10%~20%
	10%~20%
2	5%~10%
	5%~10%
1	5%未満
	Less than 5%

	Shelter 避難所		City Hall Branch 市政府办事处 시청승강소
	대피소 警察署 駐在所		Police Substation 警察局派出所 경찰서파출소
	市役所 시청		Fire Substation 消防局分局 소방서 분서

### 耐震診断を受けましょう

地震対策の第一歩は、わが家の耐震性を知ることです。大きな地震が起きてもわが家は大丈夫なのか、耐震診断を受けて確かめましょう。耐震性の判断には建築の専門知識が必要です。外見に異常が見られなくても、専門家による耐震診断を受けることが重要です。

- ① 専門家に依頼**  
信頼できる専門家に依頼しましょう。診断内容と費用についてきっちり説明を受けましょう。
- ② 調査前・調査当日**  
調査前に準備することなど聞いておきましょう。当日は建物の内外を調査しますので、所有者が必ず立会いましょう。
- ③ 調査後**  
耐震診断報告書をもらい、内容について説明をよく聞きましょう。

### 耐震改修工事を行いましょう

安全でない診断された場合は、適切な耐震改修工事を行うことで安全性を確保できます。ここでは、耐震改修工事の主な方法を紹介しています。専門家に相談してわが家にもっと適した方法を選び、耐震改修工事を行いましょう。

#### 耐震改修の主な方法

- 「偏心」の検討**  
建物の片側の面に縁側やガレージなどの広い開口部が設けられているような壁の少ない建物は、地震力を受けると建物がねじれるおそれがあります。壁の無い側に耐力壁等の設置による補強をして、建物全体のバランスを取りましょう。
- 「接合部」の補強**  
仕口(接合部)等がどのように作られているのかを確認し、できる限り金物などでしっかりとつなぎ合わせる(緊結する)ようにしましょう。
- 「老朽・腐朽部材」の交換**  
老朽・腐朽部分は新しいものに交換しましょう。
- 「基礎、地盤」の補強**  
基礎や土台がしっかりしていないと、大きな地震の時は、住宅が倒壊・大破する危険性が高くなります。基礎を補強して建物の性能を上げます。
- 「壁」の補強**  
耐力壁の数を増やすと建物は丈夫になります。新しい耐力壁の設置や筋かいの追加、太い部材への交換が補強の確実な方法です。

※「耐力壁」とは、単にボードを張っただけの間仕切り用の壁と区別され、構造用合板等を張り、想定される地震力に抵抗できる壁のことをいい、「筋かい」の入った壁も含みます。

### 家具の転倒防止

地震発生時、家具の転倒によってケガをしたり、避難経路がふさがれてしまったりすることがあります。いざというときのために、家具の固定や置き方の工夫を行いましょう。

- **収納に工夫をしましょう**  
- 重いものは下に、軽いものは上に置きましょう。  
- 本棚などは、隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく隙間を作らないようにしましょう。
- **照明器具の補強をしましょう**  
- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めましょう。
- **置き方に工夫をしましょう**  
- 家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味に置きましょう。  
- 就寝場所には、家具が倒れてこないように配置しましょう。
- **ガラスの飛散防止をしましょう**  
- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。
- **耐震金具を利用しましょう**  
- 壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。
- **重ね留め用金具**  
- 重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。
- **扉・引き出し開放防止金具**  
- 地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを置いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止棒をつけるなど安心です。

### 全壊とは？

全壊とは、自然災害による建物の被害の程度の中でも、最も大きく被害を受けた状態を指します。具体的には、平成13年6月に国より「災害の被害認定基準」が定められ、「居住する上で危険な状態」を全壊としています。

全壊	半壊	一部損壊	無被害
建物全体、もしくは一部の階が完全に倒壊している状態	外壁や柱の傾斜が1/20以上の状態	居住する上で一部支障をきたしている状態	壁面に亀裂が生じ、外装に若干の剥離がある状態
被害が生じていない状態			